

自然環境調査結果報告 — 概要版 —



令和2年度
水域編

ひらつか生物多様性推進協議会

1. はじめに

平塚市には、西部の丘陵地や河川、海浜等に多様な生きものが生息する豊かな自然環境が残されています。一方で農地、屋敷林の減少や宅地の開発等による緑の減少に伴い様々な生きものへの影響が危惧されています。

このため、平塚市は、かながわ生物多様性計画及び平塚市環境基本計画に基づき生物多様性を保全するための「平塚市生物多様性アクションプラン」を策定する計画です。アクションプラン策定の基礎資料として、ひらつか生物多様性推進協議会が、令和元年度から3カ年で、市内の自然環境調査を実施しています。良好な里地里山環境や水辺・水域の環境が残されているエリアの自然環境の現状を把握し、それを自然環境評価書にまとめます。

この冊子では、令和2年度に河川・海岸等で実施した調査結果の概要をまとめました。

2. 調査エリア

令和2年度の調査範囲（以下、調査エリアという）の位置を図1に示しました。

調査は①金目川地区、②相模川・寒川取水堰周辺、③相模川・馬入水辺の楽校周辺、④海岸地区の計4エリアに加え、植物、鳥類、魚類・甲殻類・貝類では⑤その他のエリアとして、それぞれ数地点を設け実施しました。

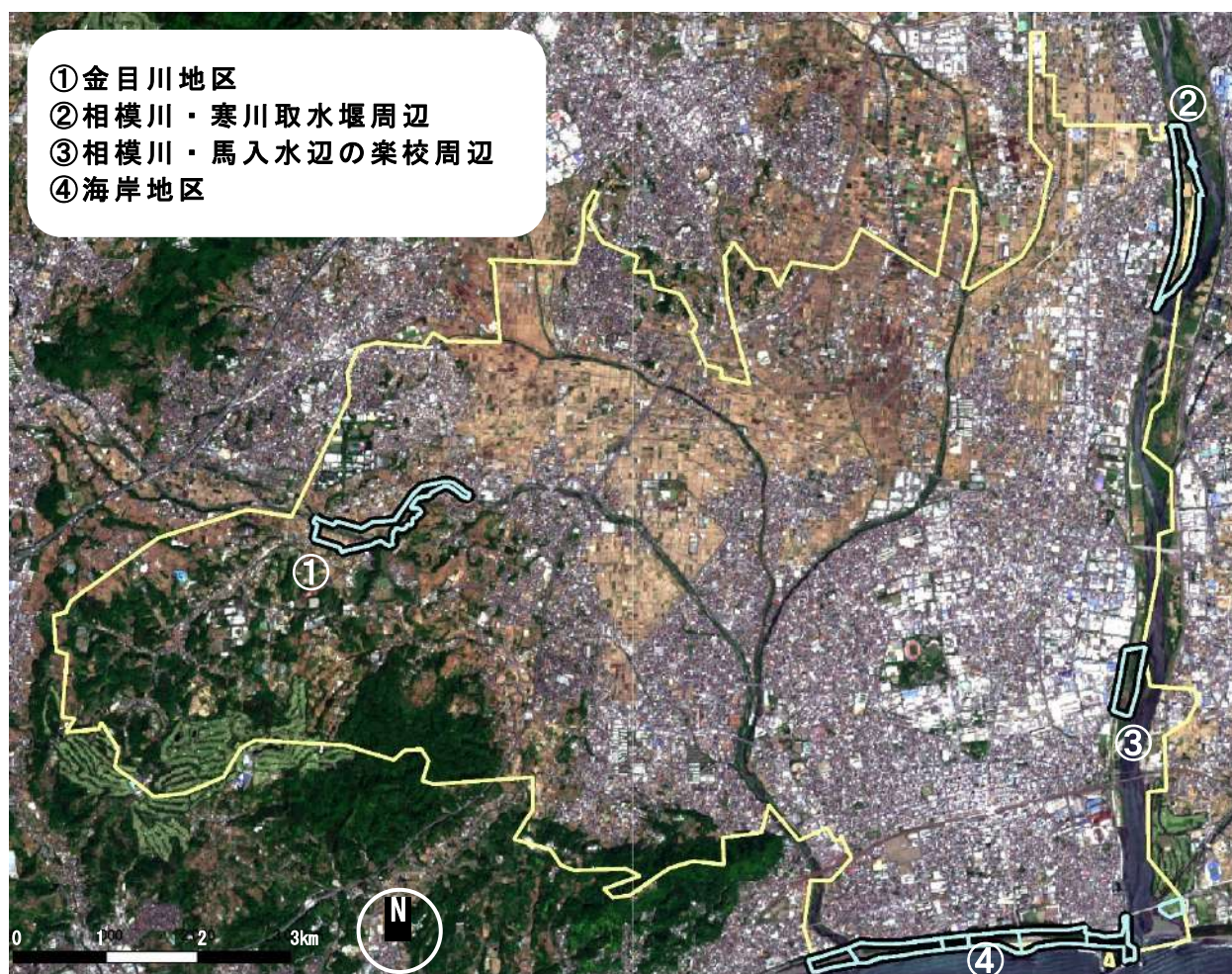


図1 調査エリアの位置（①～④）

3. 調査方法

調査は、春季(2020年3月～5月)、夏季(2020年6月～8月)、秋季(2020年9月～11月)、冬季(2020年12月～2021年3月)に実施し、植物、動物(昆虫類、鳥類、両生類・爬虫類、哺乳類、魚類・甲殻類・貝類)を対象として、現地調査により行いました(表1)。植物、昆虫類、両生類・爬虫類、哺乳類は、あらかじめ、平塚市の良好な自然環境を指標する種類(以下、指標種という)を設定し、指標種の生育、生息状況を調査しました。鳥類、魚類は全種類を対象に、甲殻類・貝類は魚類の調査の際に採集・確認されたものを記録し、調査結果から今後指標種とする種を選定しました。

分類	時期	調査日
植物	春季	2020/4/4※, 9, 12※, 14※, 5/11※, 2021/3/27※ ※他班の調査により指標種を確認
	夏季	2020/6/3※, 9, 15, 26, 7/5※, 8/5, 19 ※他班の調査により指標種を確認
	秋季	2020/9/9, 10/6, 19, 22, 28, 11/12
昆虫類	春季	2020/4/4, 11, 16, 2021/3/27
	夏季	2020/6/3, 6, 7, 15, 16, 23, 7/5, 8, 11, 19, 24, 26, 28, 31, 8/7, 13, 15, 18, 25
	秋季	2020/9/13, 18, 19, 20, 21, 22, 27, 28, 30, 10/4, 11, 13, 18, 24, 25, 29, 31, 11/8, 15, 28
	冬季	2020/12/7, 2021/1/30
鳥類	春季	2020/3/15, 18, 22, 26, 4/3, 5, 15, 28, 5/14, 17, 23, 24, 29
	夏季	2020/6/3, 4, 7, 14, 15, 18, 21, 27, 28, 7/3, 7, 9, 10, 15, 16, 20, 23, 24, 26, 27, 28, 29, 30, 31 8/1, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 13, 14, 15, 16, 17, 19, 21, 22, 25, 26, 27, 28, 29, 30
	秋季	2020/9/2, 6, 9, 10, 15, 18, 21, 26, 10/18, 20, 11/4, 15, 16, 22, 28, 29
	冬季	2020/12/3, 6, 18, 21, 26, 29, 2021/1/6, 16, 2/3, 9, 14, 16, 19, 22, 27
両生類・ 爬虫類・ 哺乳類	春季	2020/4/28, 5/11, 14, 2021/3/21
	夏季	2020/6/3, 16, 23, 7/11, 26, 31, 8/21, 24
	秋季	2020/9/19, 10/11, 23, 29, 30, 31, 11/1, 3, 4, 15, 17, 20
	冬季	2021/1/16
魚類・ 甲殻類・ 貝類	夏季	2020/7/30, 8/5, 15, 20, 27, 9/17, 27※ ※夏季と冬季の調査を同一地点で実施しており夏季の調査として実施
	冬季	2020/12/6, 10, 13, 19, 2021/1/31

表1 調査時期と調査日

4. 調査結果

調査エリア毎の動植物の確認状況を次ページ以降に示します。表中の確認できた種は、写真を掲載してる種を冒頭に記載しました。



魚類班調査風景(南金目)



植物班調査風景(海岸)



鳥類班調査風景(岡崎)

①金目川地区

Kanamegawa Area



■概要

金目川は大山に源を発する金目川水系の本流で、延長約 21km の湘南地域を代表する河川の一つです。鈴川や渋田川など多くの支流と合流して、相模湾に注ぎます。上平塚の渋田川との合流点より下流は、花水川とも呼ばれています。

ニホンウナギ、アユ、ハゼ類やテナガエビ、モクズガニなど多くの種類の魚類、甲殻類が生息しています。河川周辺には水田・湿地、草地、樹林が見られ、さまざまな生きものが生息生育しています。湿地ではオモダカ、アズマヒキガエルなどが確認されています。



■ 確認された種類

指標種調査

植物	樹林指標種	なし	計 5 種
	草地指標種	ノアザミ、ワレモコウ、クサボケ	
	水域湿地指標種	オモダカ、カワヂシャ	
	海岸指標種	なし	
昆虫類	樹林指標種	クツワムシ、ゴマダラチョウ、タマムシ、クロカナブン	計 17 種
	草地指標種	ツノトンボ、ジャノメチョウ、ヒガシキリギリス等 計 8 種	
	水域湿地指標種	マユタテアカネ、カトリヤンマ、ホタルトビケラ、キンヒバリ、ケラ	
	海岸指標種	なし	
両生類・爬虫類、哺乳類		ヒガシニホントカゲ、アズマヒキガエル、ヒバカリ、ヤマカガシ、カヤネズミ	

全種調査（甲殻類・貝類は便宜的に全種調査の区分に記載しています）

鳥類	オオヨシキリ、セグロセキレイ、ダイサギ、アオサギ等 計 59 種
魚類・甲殻類・貝類	アユ、ヒガシシマドジョウ、シマヨシノボリ、ヒラテテナガエビ等 20 種

■ 植物



ノアザミ



ワレモコウ



オモダカ

■ 昆虫類



クツワムシ



ツノトンボ



マユタテアカネ

■ 鳥類



オオヨシキリ



セグロセキレイ



ダイサギ

■ 両生類・爬虫類、哺乳類、魚類・甲殻類・貝類



ヒガシニホントカゲ



アユ



ヒラテテナガエビ

②相模川・寒川取水堰周辺

Sagamigawa・Around the Samukawa shusuiseki



■概要

田村と寒川町宮山に架かっている神川橋の上流側にあるのが、寒川取水堰です。昭和39年に建設され、県営上水道などの取水が行われています。

堰付近は四季を通じて野鳥が多く、良好な観察地となっており、過去にはオオハクチョウが飛来した記録もあります。

大神から田村にかけての河川敷に広がる草地ではスズムシやマツムシ、湿地ではミゾコウジュ、ハラビロトンボ、疎林ではクロカナブンなども確認されています。



■確認された種類

指標種調査

植物	樹林指標種	なし	計 3 種
	草地指標種	カナビキソウ	
	水域湿地指標種	マコモ、カワヂシャ	
	海岸指標種	なし	
昆虫類	樹林指標種	ヒオドシチョウ、ゴマダラチョウ、タマムシ	計 10 種
	草地指標種	ナキイナゴ、ギンイチモンジセセリ、ヒガシキリギリス等 計 7 種	
	水域湿地指標種	なし	
	海岸指標種	なし	
両生類・爬虫類、哺乳類		カヤネズミ	

全種調査（甲殻類・貝類は便宜的に全種調査の区分に記載しています）

鳥類	アオサギ、コガモ、カルガモ、トビ、カンムリカイツブリ等 計 61 種
魚類・甲殻類・貝類	実施せず

植物



カナビキソウ



マコモ

昆虫類



ヒオドシチョウ



ナキイナゴ（幼虫）



ギンイチモンジセセリ

鳥類



アオサギ



コガモ



カルガモ

哺乳類



カヤネズミの巣

③相模川・馬入水辺の楽校周辺

Sagamigawa・Around the Ba-nyu Mizube no Gakkou



■概要

神川橋から下流の相模川には海水が入り込んでいるため、淡水と海水が混じる汽水域となっています。

馬入水辺の楽校は、約7haの自然観察フィールドです。川の本流だけでなく、ワンドと呼ばれる川とつながっている池状の地形が見られ、水生・湿地性生物の生息・生育場所となっています。水辺ではカワヂシャ、オニグルミの生える疎林ではゴマダラチョウ、草地ではヒガシキリギリスなどが見られます。かつてはニホンアカガエルが記録されていましたが、調査期間中には確認できていません。



■ 確認された種類

指標種調査

植物	樹林指標種	なし	計 2 種
	草地指標種	なし	
	水域湿地指標種	カワヂシャ、マコモ	
	海岸指標種	なし	
昆虫類	樹林指標種	タマムシ、ゴマダラチョウ、クロカナブン、マイマイカブリ	計 12 種
	草地指標種	オナガササキリ、マツムシ、ヒガシキリギリス等計 6 種	
	水域湿地指標種	キンヒバリ、ケラ	
	海岸指標種	なし	
両生類・爬虫類、哺乳類		シュレーゲルアオガエル、シマヘビ、カヤネズミ	

全種調査（甲殻類・貝類は便宜的に全種調査の区分に記載しています）

鳥類	カンムリカイツブリ、ミサゴ、アオサギ、ダイサギ、トビ等 計 74 種
魚類・甲殻類・貝類	マハゼ、クロベンケイガニ、テナガエビ、ミミズハゼ、ヒメタニシ等 計 32 種

■ 植物



カワヂシャ



マコモ

■ 昆虫類



タマムシ



オナガササキリ (幼虫)



マツムシ

■ 鳥類



カンムリカイツブリ



ミサゴ

■ 両生類・爬虫類、哺乳類、魚類・甲殻類・貝類



マハゼ



クロベンケイガニ

④ 海岸地区

Coastal Area



■ 概要

東側の相模川河口から西側の花水川（金目川）河口までの約 3.8 kmの海岸線は、砂丘が広がり、砂丘の北側には海岸砂防の目的で植林されたクロマツなどの林が続いています。夕日に映し出された海岸の美しさは、「平塚砂丘の夕映え」として、平塚八景に数えられています。

ハマヒルガオやコウボウムギなどの海浜植物や、ハマエンドウだけをホストとするクロマメゾウムシなど県内でも希少な海浜性の昆虫が見られ、市内の他地域では見られない独特な生物相を形成しています。



■ 確認された種類

指標種調査

植物	樹林指標種	なし	計 9 種
	草地指標種	なし	
	水域湿地指標種	なし	
	海岸指標種	コウボウムギ、ケカモノハシ、オカヒジキ、ハマニガナ等 計 9 種	
昆虫類	樹林指標種	なし	計 7 種
	草地指標種	ヒガシキリギリス、スズムシ、マツムシ	
	水域湿地指標種	なし	
	海岸指標種	クロマメゾウムシ、オサムシモドキ、ハマヒョウタンゴミムシダマシ類、シロスジコガネ	
両生類・爬虫類		確認できず	
哺乳類		実施せず	

全種調査（甲殻類・貝類は便宜的に全種調査の区分に記載しています）

鳥類	ハヤブサ、ヒドリガモ、アカエリカイツブリ等 計 64 種
魚類・甲殻類・貝類	実施せず

植物



コウボウムギ



ケカモノハシ



オカヒジキ



ハマニガナ



ハマボウフウ



ハマエンドウ

昆虫類



クロマメゾウムシ



オサムシモドキ



ハマヒョウタンゴミムシダマシ

鳥類



ハヤブサ



ヒドリガモ

⑤ その他のエリア（魚類等）

The Other Areas (Fishes etc.)



魚類の調査地点は、経年の変化を比較するため、過去に調査が実施されていた地点から選び、川とつながる用水路・田んぼも水生生物が利用する環境であることから選びました。

渋田川、金目川、鈴川という大きな川を主に、特に平塚市を代表する河川である金目川は1地点を追加しました。

鈴川の大正堰は、鈴川・板戸川・大根川の三川の合流地点として注目しました。座禅川は、前年度に実施した里山エリアの下流に位置することから選定しました。

相模川の水辺の楽校は、過去に観察会などが実施され生息種の知見があることや調査のしやすさなどから選定しました。

用水路・田んぼは、過去に観察会が実施されたことなど調査実績があるところから選定しました。



■ 確認された魚類

※写真は在来種を優先して掲載しています。

調査地点	魚類	甲殻類	貝類
①金目川・高麗大橋	ニゴイ、ボラ、カワアナゴ、ヌマチチブ等 計 22 種	ミゾレヌマエビ、ヒラテテナガエビ等 計 6 種	なし
②座禅川・脇橋	アブラハヤ、オイカワ、ヒガシシマドジョウ等 計 13 種	スジエビ、カワリヌマエビ属、モクズガニ等 計 6 種	なし
③渋田川・鷹匠橋	ギンブナ、オイカワ、ミナミメダカ等 計 17 種	カワリヌマエビ属、ヒラテテナガエビ、モクズガニ等 計 6 種	スクミリンゴガイ、ヒメタニシ(殻)等計 3 種
④南金目・用水路・田んぼ	タモロコ、オイカワ、ドジョウ、シマヨシノボリ等 計 13 種	カワリヌマエビ属、ヒラテテナガエビ等 計 7 種	カワニナ、チリメンカワニナ等 計 3 種
⑤板戸川・前橋	アブラハヤ、オイカワ、シマヨシノボリ等 計 12 種	カワリヌマエビ属、ヒラテテナガエビ等 計 4 種	カワニナ、タイワンシジミ類
⑥鈴川・大正堰	タモロコ、オイカワ、シマヨシノボリ、ゴクラクハゼ等 17 種	カワリヌマエビ属、ヒラテテナガエビ、モクズガニ等 計 5 種	なし
⑦北豊田・用水路・田んぼ	ギンブナ、ドジョウ、ミナミメダカ等 13 種	ホウネンエビ、カワリヌマエビ属、アメリカザリガニ等 計 4 種	スクミリンゴガイ、マルタニシ等 計 4 種
⑧金目川・観音橋(再掲)	オイカワ、アユ、シマヨシノボリ、ボウズハゼ等 計 15 種	カワリヌマエビ属、ヌマエビ、ヒラテテナガエビ等 計 5 種	なし
⑨相模川・馬入水辺の楽校(再掲)	ニゴイ、マハゼ、ヒナハゼ、ヌマチチブ等 計 18 種	ミゾレヌマエビ、テナガエビ、アメリカザリガニ等 計 10 種	イシマキガイ、ヒメタニシ等 計 4 種

■ 魚類



ニゴイ (幼魚)



カワムツ



ヌマチチブ



ボウズハゼ



ヒナハゼ



ヒガシシマドジョウ

■ 甲殻類



ヒラテテナガエビ



ミゾレヌマエビ



モクズガニ

■ 貝類



カワニナ



イシマキガイ



ヒメタニシ

⑤ その他のエリア (鳥類・植物)

The Other Areas (Birds・Plants)



平塚市内を流れる一級河川の相模川と二級河川の渋田川、金目川、鈴川を対象として、各河川の市内における河口域・中流域・上流域等の1~3か所を網羅することで、市内の水辺（河川および水田）環境を概ね把握できる調査地点を設定しました。

①~⑦は鳥類の調査エリア、⑧は植物の調査エリアです。



■確認された鳥類

主な確認種と種数

調査地点		主な確認種と種数
名称	分類	
①金目川河口	河口域	イソヒヨドリ、ウミネコ、カンムリカイツブリ等 計 57 種
②金目川・花水橋	中流域	カワセミ、ユリカモメ、アオサギ、カイツブリ等 計 61 種
③金目川・観音橋（再掲）	上流域	ダイサギ、アオサギ、カイツブリ等 計 59 種
④鈴川・立堀親水公園	中流域	イソシギ、アオサギ、カイツブリ、ダイサギ等 計 54 種
⑤鈴川・岡崎	上流域	アオサギ、カイツブリ、ダイサギ等 計 52 種
⑥洪田川・鷹匠橋	上流域	クイナ、オオバン、アオサギ、カイツブリ等 計 45 種
⑦北豊田	水田地帯	タシギ、ダイサギ、アオサギ、ゴイサギ等 計 42 種

■確認された植物

主な確認種と種数

調査地点		主な確認種と種数
名称	分類	
⑧北金目水田	水田地帯	ミズオオバコ、オモダカ 計 2 種

河口域



イソヒヨドリ



ウミネコ

中流域



カワセミ



ユリカモメ



イソシギ

上流域、水田地帯



オオバン



タシギ

植物



ミズオオバコ

生物多様性とは

地域を特徴づける自然があり、その環境ごとに特有の生きものがあること、そしてそれぞれがつながっていることです。

生態系の多様性

森林や里山、河川に
湿原、干潟等さまざま
なタイプの自然が
あること

生物多様性

種の多様性

生きものの種類が
多いこと

遺伝子の多様性

同じ種類でも遺伝子
レベルでの違いがあ
り、個性豊かである
こと

発行：ひらつか生物多様性推進協議会

協働事業者：平塚市環境保全課 ☎23-9969（直通）